

進路講話（定時）



1月12日（金）、打越正行氏（琉大非常勤講師）を招いて、進路講話（定時）が行われた。

「学校を出ること、つるむこと、そして、家族を作ること。ある女の子たちの物語」として話を頂いた。

生徒の感想からは、「人と相談することが大事」「無知は悪い人に狙われる」「やっぱり中卒は不自由」「悪いやつはやさしいやつ」・・・などの感想があった。

その後、打越先生とお礼のメールのやり取りをしましたが

- ・自分の研究していることについて伝える機会を頂き感謝。
- ・受講態度も良く、質問や受け答えも積極的であった。
- ・生徒代表挨拶も、私が伝えたいことを的確に掴んだ素晴らしいものだった
- ・今までいろんな場で話す機会があったが、どこよりも伝わっていると感じた。

以上の感想が綴られていました。

生活科学科マナー講座

1月19日（金）生活科学科マナー講座が行われた。講師は、表千家沖縄支部 末吉和美氏（本校元職員）で、「茶道をとおしてマナーを学ぶ」という内容で、茶室、畳間における所作（振る舞い）を学んだ。



我々の日常の習慣・振る舞いは、伝統文化に根付くものが多い。それらの作法は、単なる形ではなく、おもてなしやいたわりの心と結びついていなければならない。「日本人はマナーが良い」と言われてきたが、現状はそうだろうか？日本人は他人の目を気にしているだけという話も聞いたことがある。心が備わっていなければただの型にすぎない。沖縄もかつては「守礼の邦」といわれたが、現状はどうだろうか？

今回の講座内容は、マナーを学ぶ・伝統文化を学ぶという二つの側面がある。伝統や文化を学びながら、その形の美しさは勿論、その心も学ぶ機会になったと思う。

今、なぜ「日本の伝統と文化」なのか？それは、まず ①家庭や地域において生徒らが伝統や文化について理解したりする機会が減っていること ②国際化の時代において、異文化に対する理解を深めるためには、自国の文化理解が基盤となって育まれていなければならないことなどがあげられる。本校では、豊年祭や地域の行事等で出席扱い等の依頼が多々ある。沖縄県、そして地域の伝統や文化もあわせて、その継承を学ぶ機会、体験する機会を大事にさせたい。また、外国人観光客も増加し、彼らとコミュニケーションを取るためには、語学力は勿論、うちなーんちゅとして、沖縄、北部地区の歴史や文化、伝統、経済、地理・・・についてしっかり学ばせたい。伝統と文化を大事に

し、そこに秘められた先人の心も学ばせたいものだ。

同窓会館見学(園芸工学科・生活科学科1年)

1月17日(水)園芸工学科1年、22日(月)生活科学科1年が同窓会館を見学し、調べ学習を行った。

國頭郡各甲種國頭郡各間切島組合立農学校→沖縄県立国頭農学校→沖縄県立農学校→沖縄県立農林学校へと伝統が連綿として引き継がれ、現在がある。その歴史資料が展示されている同窓会館(資料室)を参観して欲しい。それが、本校の生徒としてのプライドにもつながって



いく。また、今回の取組は、創立記念日の事前学習としても、とても

↑熱心

に調べ学習する生徒

良い取組である。

宿泊実習(熱帯農業科1年)

1月17日(水)~19日、寄合原農場にて、熱帯農業科1年の宿泊実習が行われた。

今回は2回目となり(1回目は田植え)、サトウキビ(砂糖黍)の刈り取り→圧搾→清浄(煮詰め作業、あくを取る)をおこなった。植え付けから黒糖になるまでの一連の流れを体験すること、また基幹作物であるサトウキビについて学ぶ機会となった。



ク

サトウキビは、

↑清浄作業

・葉 → ウージ染め、飼料(えさ)

・茎の表皮 → 健康食品・ガムベース・健康ドリンク

・しぼりかす → たい肥・ボード、紙、飼料(えさ)

さ)

となり、すぐれものだ。また、C4植物と呼ばれ、稲などのC3植物に比べ2倍の光合成能力があり(CO₂

↑ 圧搾作業

吸収力が高い)、温暖化の要因となるCO₂削減

にも役立つといわれている。また、バイオマス原料としても注目されている。今後の学習の広がりにも期待したい

体調管理を！！

本校でもインフルエンザが流行りそうだ。養護教諭の山口先生、泰子先生からも注意喚起があったが、次のことを徹底して欲しい。



生徒・職員ともに

- 1、手洗い・うがいの徹底
- 2、授業開始時には教室の空気を入れ換える(窓開け)
- 3、マスク着用
- 4、防寒(生徒は下着等で調整するように指示)
- 5、睡眠と栄養補給